

【社会の変動】

社会学の創成期に活躍した社会学者として、

コント、スペンサーらがいる。

↓彼らは、

社会学を、

政治・経済・哲学・科学などの『広範な分野をまとめ上げる』
百科事典的な学問と考えた。(→これを総合社会学という)

↓ここでは

彼らを中心に『社会の変動』に関する様々な学説を押さえる。

A. コント (1798-1857) ※『社会学の父』といわれる人物

↓彼は

人間の精神の進化に応じて、
社会は3段階に発展していくという

3段階の法則を唱えた。

↓すなわち、

人間の精神は

神学→形而上学 (社会の真理を探究=哲学) →実証へと発展する。

↓それに伴い、

社会は

軍事社会→法律社会→産業社会へと発展する。

【国家一般 H20】 ×

A. コントは、三段階の法則によって、人類の社会が軍事的段階、商業的段階、産業的段階を経て、暴力や投機的な暴利といった非合理的な要素に依存した状態から、計画的な産業の発展を中心とした合理的な状態へと進むことを予測した。

【特別区 H20】 ○

コントは、人間の精神が神学的、形而上学的、実証的と3段階に進歩するのに対応して、社会は軍事的段階から法律的段階を経て産業的段階へと発展するとした。

【特別区 H23】 ×

コントは、人間社会の発展は人間の精神の進化に見合うものとし、精神の神学的段階に対応するのは軍事的社会であり、形而上学的段階には産業的社会が対応し、実証的段階に対応するのが法律的社会であるとした。

H. スпенサー (1820 - 1903)

↓彼は

ダーウィンの進化論と同様の発想をとり、
社会の進化を『生物の進化との類推 (アナロジー)』で捉えた。

↓そして

生物が進化するのと同様に、
人間社会も絶えず進化していくという、
社会進化論の立場をとった。(※『適者生存』という言葉で有名)

↓そして、

社会を以下の2つの類型に分けた。

↓

軍事型社会

→緊密で同質的な人々が
強制的協働で結びついた『単純』な社会

産業型社会

→不緊密で異質的な人々が
自発的協働で結びついた『複雑』な社会

↓その上で

生物の世界で、
単細胞生物が進化して→多細胞生物になるのと同様に、
社会も『軍事型社会→産業型社会』へと段階的に進化するとした。

【国家一般 H23】 ×

H. スペンサーは、人間社会は生物と同様に絶えず進化していくという社会進化論を批判した上で、人間社会は全人格的でパーソナルな結びつきを重視する社会から、利害関係に基づく結合を重視する社会へ移行するとした。

【特別区 H20】 ○

スペンサーは、社会は強制的協働に基づく軍事型社会から自発的協働に基づく産業型社会へ進化するとした。

【特別区 H23】 ×

スペンサーは、社会が、相対的に不確定で不緊密な異質性から確定的で緊密な同質性へと進化する方向は、そのまま単純社会から複合社会へ、軍事型社会から産業型社会への社会進化のコースにほかならないとした。

K. マルクス (1818-1883)

↓彼は

史的唯物論による発展段階説を主張した。

↓これによると

社会は『生産力と生産関係』の発展段階に応じて、

①原始・共産制

②古代・奴隷制

③中世・封建制

↓そして

④近代・資本主義社会へ変動する。

↓この資本主義社会は、

人々を

- ・資本家階級 (生産手段を所有する側)
- ・労働者階級 (労働力を提供する側)

の2つに分裂させる。

↓そして、

『労働者の窮乏化』が進む中で、

労働者は団結→階級闘争を起こす (= 闘争理論)

↓このように、

2大階級の闘争が発生し (×人種間の闘争)、

『労働者階級が勝利』することにより、

最終的に⑤共産主義社会 (社会主義)に移行する。

(※マルクスは人類の歴史を『階級闘争の歴史』と呼ぶ。)

マルクスは、

社会は

『生産力と生産関係』からなる下部構造 (経済) が、

上部構造 (政治、法律、文化、イデオロギーなど) を規定するとする。

↓そして、

生産力の変化等により→下部構造が変化すると、

上部構造も変化して、

社会体制の変革が起こる。

↓その結果、

『資本主義→社会主義に移行する』と考えた。

↓こうした歴史観を

マルクスは史的唯物論と呼ぶ。

【特別区 H20】 ×

ロストウは、社会は生産力と生産関係の発展段階に応じて、原始共産制社会、古代奴隷制社会、中世封建制社会、近代資本主義社会へ変動してきており、さらに社会主義社会に移行するとした。

【国家一般 H19】 ×

闘争理論は、社会の成員間に存在する不平等ゆえに、社会が分裂していることを強調し、社会を闘争と変化の過程としてとらえる。社会変動の原動力を、人種間の闘争に求めたK。マルクスの社会理論は、この一例である。

【国家一般 H20】 ○

K。マルクスは、資本主義社会が、生産手段を私的に所有する「資本家階級」とそれをもたず労働力のみを商品として売り渡す「労働者階級」の二つに人々を分裂させ、産業資本の高度化と労働者の窮乏化が進む中で、多数の労働者が団結する条件が生じると考えた。

【国家一般 H23】 ×

K。マルクスは、史的唯物論の立場から社会変動を論じ、文化的・イデオロギ一的な上部構造における科学的認識の変化が先に起こり、それが生産力と生産関係からなる下部構造の変化を促すことによって社会構造全体の変動を推進するとした。